



ドローン物流エリアモデルの実現に向けた連携協定を締結

6/4 危機管理センター

市と株式会社かもめやは、離島におけるドローン物流エリアモデルの実現に向けた連携協定を締結しました。同社は、8月に粟島と須田港を結ぶ定期航路を開設し、島民が注文した宅配メニューをドローンで届ける計画です。これにより、将来的な新しいサービスの掘り起こしをめざします。



健康増進および農業活性化に関する協定を締結

5/31 危機管理センター

市と株式会社ちとせ研究所は、同社の持つ生物工学の知見や農地の土壌データを活用し、市民の健康増進や農業活性化に取り組む協定を締結しました。今後は、ヘルスケアの取り組みや、高品質な農業や薬用作物の栽培に向けた事業を行います。



夜間中学の開校に向けて

5/21 危機管理センター

公立中学校夜間学級の在り方を検討するため、2回目の検討委員会が開催されました。今回の会議では、夜間学級のめざす姿について検討されたほか、設置場所については、市内中学校の状況（ユニバーサルデザインや空き教室、通学方法など）が説明され、話し合われました。



◀会に先立ち、教育長があいさつ



「社会を明るくする運動」弁論大会

6/11 葦中町農村環境改善センター

第72回三豊地区中学校「社会を明るくする運動」弁論大会が開催され、市内中学校7校の代表生徒たちが弁論を発表しました。今年の最優秀に選ばれたのは「世界を変えるひとりひとりの『愛』」のテーマで発表した仁尾中学校3年生の小前志歩さん。小前さんは、7月7日に開催される県大会に出場します。

オーストラリアの高校生とオンラインで交流

6/1 四国学院大学香川西高等学校

四学香川西高校の特進コース3年生が、オーストラリアのタンボリンマウンテン高校の生徒とオンラインで交流しました。これは、市国際交流協会がコロナ禍でも語学学習の実践の場を提供したいと提案し、実現。生徒は相互に自己紹介や出身地の紹介などを行い交流しました。



身近な食材 たまねぎについて学ぼう！

5/31 比地大小学校

株式会社七宝の筒井和光さんを講師に招き、比地大小学校でたまねぎの出前授業が行われました。

授業では、種からたまねぎになるまでの話を聞いたり、ねぎ坊主（たまねぎの種を作るための花）を観察したり、受粉を行う蜂の蜂蜜を試食したりと、さまざまな体験をしました。



◀さまざまな種類のたまねぎを見せてもらいました



ほっとニュースは市ホームページでも三豊市 検索

大きく育ったたまねぎを収穫！

5/31 勝間小学校周辺

勝間小学校の4・5年生がたまねぎの収穫体験を行いました。このたまねぎは地元の農家さんが世話をしてくれたもので、子どもたちは昨年11月末頃に植え付けも体験しました。

子どもたちはコツを覚えると、「どんどん抜くぞ!」「大きいのが取れた!」などと楽しそうにたまねぎを収穫。この日収穫したたまねぎは、後日学校給食で使われました。



プロジェクト実現のために

5/28 三豊市役所

レック株式会社から、企業版ふるさと納税として寄付をいただきました。永守貴樹代表取締役社長は市が実現をめざす「宝山湖ボールパーク夢いっぱいプロジェクト」について、スポーツを通じて全国区の話題を提供できるとご賛同いただきました。寄付はプロジェクト実現のための事業に活用されます。



感染症対策に役立てるために

5/17 三豊市役所

株式会社五星から、市が実施する新型コロナウイルス感染症にかかる抗原検査に役立ててほしいと寄付をいただきました。今中雅樹代表取締役社長は、「抗原検査は市内の事業者にとって非常にありがたい。この取り組みに共感し、地元企業として役に立つことがしたいと思った」と述べました。